

別海町

モデル事業の積極活用で、
地域情報化を進める



広大な空間のデメリットを 情報化で克服

根釧パイロットファーム計画や新酪農村事業の事業区域で大規模な酪農地帯として知られる別海町。人間の数よりも牛の数のほうが多く、面積は町だというのに香川県の7割に相当するという広大なまちです。この空間距離がもたらすマイナス面を情報化によって克服しようと、別海町ではさまざまなモデル事業を活用して、地域情報化が進められています。拠点整備、遠隔医療、基幹産業である酪農への活用など、これまでの取り組みを取材しました。

マルチメディア館を核に ネットワークづくり

別海町の特徴は、まず町内に地域情報ネットワークの拠点となるマルチメディア館を整備したことです。郵政省（現総務省）と通産省（現産業経済省）の共同による先進的情報通信システムモデル都市構築事業のモデル事業として、5割補助で建設が進められました。'99年4月1日に開館し2年を経過しましたが、人口17,000人ほどの別海町で、累計87,000人ほどの来館者が訪れています。当初、頭を悩ませたのは、どのように住民に興味を持たせ、足を運ばせるかということでした。そこで、賛否両論のなか子供向けのテレビゲームを4台設置することにしました。子供と一緒にやってくる親が、待っている間にパソコンやインターネットに触れ



別海町のマルチメディア館



気軽にパソコンが利用できるマルチメディア館のコミュニティホール



館内には150名の収容が可能な多目的・多機能ホールもある

てくれればという願いからです。開館当時はゲーム目当ての小学生の来館者が多かったそうですが、3カ月ほど経つと状況は一変。子供たちもパソコンやインターネットに興味を持ち始めました。現在もゲーム機は設置されていますが、小学校低学年の生徒のみで、高学年と親世代は、パソコンやインターネット利用が中心になりました。時期を同じくして学校でもパソコン設置が進んだことが相乗効果となったようです。

別海町ではこのメディア館を核に、町内8地区にある学校や公共施設をネットワークで結ぶ構想を打ち出しています。すでにすべての学校には、テレビ会議システムが設置されていますが、公民館や医療機関などにも情報端末等を設置し、今まで費やしていた移動時間を軽減するほか、手軽に情報交換を行う手段として活用していくことを狙っています。

■期待が高まる遠隔医療

情報化のなかで、別海のように広大な地域で注目されているのが遠隔医療のシステムです。これについても、'97年に厚生省（現厚生労働省）の遠隔医療推進モデル事業として、別海町立病院と町内の5人の患者の間で遠隔医療システムの試行が行われました。遠隔医療システムにもさまざまなタイプがありますが、別海町の場合は、患者宅にテレビ機能のあるパソコンと、血圧や脈拍、心拍数

などが測定できる機械を設置。町立病院にはデータサーバーと患者宅とつながっているテレビ機能付きパソコンを置き、患者のデータとテレビ画面を見ながら検診を行うというものです。医師や看護婦はテレビ画面で患者を見ることができるので、顔色や表情が確認できます。また患者の多くは高齢者が多いことから、操作に手間どらないように、画面に触るだけで簡単に操作できるタッチパネル方式のパソコンを整備しました。現在は1名の患者が遠隔医療システムを継続利用していますが、それまで心配されていた高血圧が、精神的な安心感からか、安定した数値を保っているといいます。息子さんが家をあけられない酪農業のため、病院までの送迎をなかなか言い出せないという悩みも、遠隔医療システムの活用でずいぶん解消されたようです。

しかし、これはまだ試験的な取り組み段階。実際に遠隔医療システムが運用されるには、専属医師の確保や、診療報酬対象への組み入れなど、いくつか課題が残されています。また、モデル事業の際には患者の費用負担は一切ありませんでしたが、今後は通信料の自己負担など、受益者負担と行政支援のバランスも検討課題です。

一方、遠隔医療のモデル事業と同じころに動き出したのが、札幌医科大学とともに進められているテレヘルスプロジェクトです。これは札幌医大と別海町内の老人保健施設をテ

テレビ会議システムでつなぎ、双方で患者のレントゲンや医療分析したグラフなどを見ながら、診断や治療の協議を行ったり、指導を受けたりするというもの。なかでも最近、その機能を発揮しているのが、リハビリ分野です。作業療法士、理学療法士らの技術は進展が早く、先端のテクニックを定期的に研修する必要があります。しかし別海のような遠隔地では、そう頻繁に札幌へ出向くこともできません。もともと人材が不足している職種のため、留守時のスタッフも万全な体制は望めない状況です。そこで患者と一緒にテレビ会議システムで札幌医大の医師とやりとりをして、直接アドバイスをもらうことで、こうした課題が解消されたのです。最近では、釧路管内の作業療法士らを一堂に会して、テレビ会議システムを使った研修会を開催する動きも見られており、今後は、地域内の病院間の情報交換の面でも期待がもてる取り組みのようです。

**酪農業経営に
情報化ツールを有効に活用**

別海町では農業生産額が町内の約30%を占め、工業・商業においても農業生産関連業種が多く、大手乳業3社の工場が立地しているなど、地域経済に占める農業の割合は非常に大きなものがあります。しかし'95年には牛乳・乳製品の輸入自由化が始まるなど、酪農業経営においては厳しい

環境が予想され、市場原理の競争に勝ち抜くためにも、消費者の要望に答えられる安全で良質な牛乳の生産とその体制、経営の安定などが非常に重要になっています。別海町ではいち早く、こうした将来像を見越して、'96年に「別海町農業振興計画」を策定し、酪農・畜産の将来目標を定めています。そしてその対策として安定生産体制の確立や支援体制の確立など、今後具体的に進めていくべきことを取りまとめました。一方で、さまざまな科学技術が発展し、牛にかかわる多くの情報が蓄積されています。どんな飼料を与えると、どんな牛に成長するか。そしてどんな乳が生産されるか。そうした情報が蓄積されているにもかかわらず、なかなか地域全体として有効に活用できていなかったのが、これまでの状況でした。同時に市場や経済に関するデータも同じです。そこで別海町では、農業振興計画に基づき、各種の情報を有効に活用していこうという取り組みが進められています。

具体的には、昨年2、3月にかけて、パソコン、またはファクスにインターネット機能がついた多機能端末のどちらかを農家全戸に設置し、それらを活用して、これまで蓄積したデータを閲覧しながら、同時に個別に管理しなければならないさまざまな牛のデータや農場管理のデータをパソコン上で処理し、各農家の経営方針にあった生産管理を行っていこうという取り組みです。機器の設置は、



パソコン研修室では酪農家向けの研修会も開催した



動画、音声、文字データなどを編集できるマルチメディア工房を住民は無料で利用できる



別海町ホームページ
<http://www.aurens.or.jp/hp/betsukai/>

国、町、農協の補助により、個人負担は多くても3万円程度。もともと各農家には、農協からの情報受け皿としてFAXが設置されていましたが、買い替え時期とも重なり、今後の情報技術の進展を考えると、パソコンを活用したインターネットやメール利用で、これまで以上に農業情報を有効に活用していこうという考えからこのような措置が取られることになったのです。パソコンには、独自で開発したソフトがインストールされており、入力したデータを加工すると、経営判断材料としても役立つようになっています。また各種のデータはマルチメディア館に集められ、農協がこの情報の管理・運用に当たっています。

農業振興計画策定に携わってきた産業振興部農林課の中村主幹は「メディア館に多くの情報を集積し、それを連結、加工することで新しいデータが蓄積されます。それらが今後、コスト低減や需給調整機能の強化など酪農経営に生かされていくことが重要です」と、これらの取り組みの大きな狙いを語ります。これまでは、点と線でしかなかった酪農の蓄積情報を面につなげていくことで、経営戦略や地域農業のあり方など、新しい酪農業の姿が形になっていくのでしょう。今後、この酪農関連の情報化の取り組みがどのように有効活用されていくのか、成果はこれからというところ です。

■今後の課題

別海町が目指す地域の姿は「グレードの高い壮大な田舎づくり」。そのために、まず拠点となるマルチメディア館を整備したわけ です。「情報化というのは、ニワトリが先か、卵が先かに似ている」とマルチメディア館の川口主幹は言います。しかし、これまでと同じような、ハードありきの考え方を引きずっている感は否めません。川口さんも、「これからはメディア館がどのように情報を受発信していくのが求められます。どんな情報を住民に提供できるのか。あるいはどんな情報を住民が求めているのか。アンケートなどの調査を実施して今後のことを考えていく予定です」。また別海町では、メディア館をはじめ、多くの施設が町民サービスとして無料開放されており、この点は受益者負担の意識を薄れさせてしまうような気もします。今後、厳しい地方財政が予想されるなか、住民負担についての見直しも必要でしょう。そこをどう理解してもらうかもこれからの課題といえそうです。

とはいえ、地域の特性を生かして、積極的にモデル事業を活用しながら情報化を進めていくことも地域の一つの智慧。今後、これらの先進的な試行が、地域でどのように根付いていくのが楽しみなところ です。